

坂田先生

PHYSICAL INSTITUTE
NAGOYA UNIVERSITY
CHIKUSA-KU, NAGOYA, JAPAN

11月10日 1958, Gneve

ハグワッシュ会議のお帰りのさい お目にかかると楽しみは二つあるがその機会なく残念だった。既に御存知かと思いますが CERNにもハグを中心として既に帰米した Weiskopf, Inglis 等の肝入りで有志の研究会が出来、informalに度々会合が持たれています。

そして今回のハグ会議に Responsibilities and Organization of Scientists in the Atomic Age と題する提案が CERN 有志の名でなされる筈でした。ところがハグへ行く前に CERN に立寄った Powell と有志の一人 Penly が相談した結果、現在のハグの空気が時期尚早で、今これを討論にさせたら殆どの参加者は離れゆく恐れがある" という Powell の情勢判断でこの提案は見合せられた。

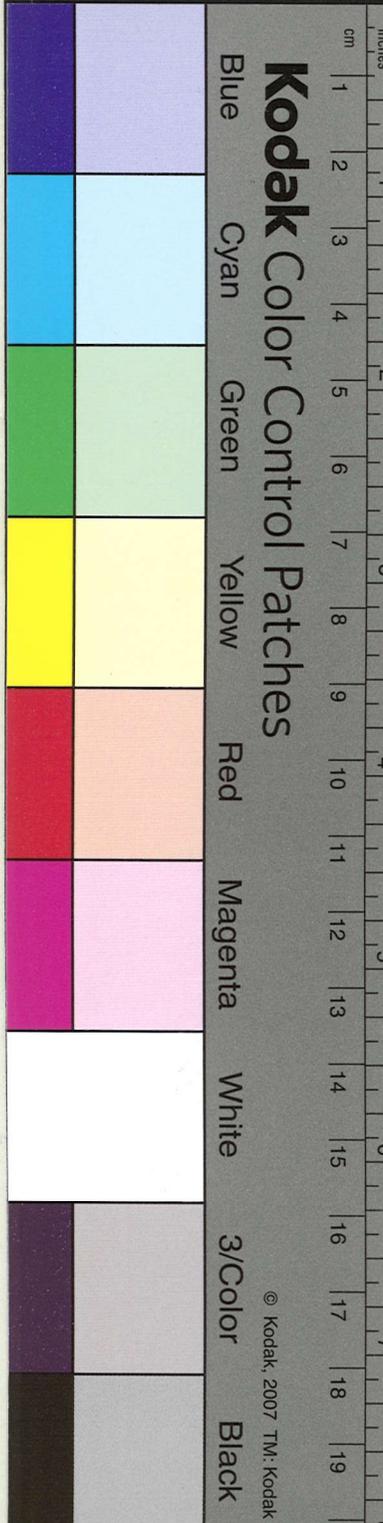
一方、ハグの帰りに寄った Martin Kaplan が我々の会合に願を出してハグの空気を伝へるの提案 The Organization of Scientists nationally and internationally to further and extend the aims of the Pugwash Conferences の影響を話してくれました。彼によると Powell はその場の空気からこの論議については討論の時間がないう理由で全然させないため、Kaplan の提案と CERN 有志の提案はかなりの差が一致して、Kaplan の paper はお許しにもあると思っております。CERN 有志の提案は本心からなると思っております。

要するに、英米等の科学者は自分達だけでは非常に活動は出来ず、是非世界的な規模の科学者の Organization を作る必要がある。勿論世界科連やアメリカの FAS がある事は知っているが、政治的関係等、一切から独立な科学者のための広い情報交換の場を作り、心ならずも isolate されている各国の科学者を団結させるべきである。

本題にハグの空気が high class の科学者の Salon 的気分のため、現場の若い科学者からは浮き上がっている。今日何れも急を要するのは public の啓蒙より科学者自身の啓蒙である。広汎な層の active scientists を組織化するには各国の politicians に対して無力であるというのから CERN 有志の案で international で取り組むという批判はあってもおれませんが、いかなる大国の物理学者の個人的な悩みは — 特に若い人々の — 深刻です。

始め小生は CERN 有志提案の全文(これは ^{最初から} ~~最初から~~ 作り出されて、Weiskopf にも送られておれん)を託出し、或は豫文の形、日本に KJR の渡りかと思つた。この有志と相談したのが、Penly (有志の中心人物)の意見で思ひ止めた。その理由は後述通りです。

Pugwash に関する Powell 始め参加者の気持は分る事である。most left wing といふ見做された Powell は時期尚早と思つた。だから参加者が独立に運動を開始するのは好ましくない。おれは小生から日本の参加者先生始め湯川、朝永諸先生に CERN の気持を伝え、先生方から日本の下部組織 (KJR など) の意見を徴して Powell 等は Pugwash の continuing committee を encourage して戴く方がよいというのです。何れにせよ Pugwash の参加者を核としてこれを拡大成長させる方向へ行かなくてはならぬ。小生も全面的に賛成です。ですから今回の Pugwash 取組から出た CERN 提案は本心から出たもので、実際読まれた Kaplan 論文を真剣に検討して戴き、漸進的な提案を持っていくべきだと思います。一方小生は CERN 有志の提案には labour union への提議を強くしたてあります。そして labour union は科学者が精神的に浸透しゆく具体案を discuss されたらよいです。各国の科学者が去るの国々本等に強力な政治的発言が出来るようにならなければ atomic age の平和は望めないという理想は実に雄大なことです。何れ考えてみれば、これが現在の unique solution ではないか?



PHYSICAL INSTITUTE
NAGOYA UNIVERSITY
CHIKUSA-KU, NAGOYA, JAPAN

とに前原水爆の放射に関する academic な討論が各国政府と独立に 科学者の international organization でなされるべきが緊要の問題だと思います。これにより二つの目的のため Pug が充足したのですからこれを去るだけ速かに発展強化したいと切念に思っています。小生は今月末 CERN を離れ来春までにお立教へ戻ります。ここに立寄るに The work of Japanese scientists on the problem of radioactive fall-out の題に informal meeting で話に行く方依頼して下さる。微力ながら出来るだけ日本の皆様の活動ぶりをお伝え申し上げます。この年終の反省は去る月より湯川朝永三宅謙先生にもお伝え下さい。小川君とは当地で話し合いました。去る小生の 12月1日以降の address は Istituto di Fisica dell' Università, Padova, Italy です。研究室の皆様には

豊田利幸

